

平成20年5月
富士電機機器制御株式会社
システム機器事業本部

MICREX-SXシリーズ SPH SPH2000 機能拡張のお知らせ

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より、富士プログラマブルコントローラをご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、MICREX-SXシリーズ SPH2000において、ファームウェアのバージョンアップによる機能拡張を行いましたのでご案内申し上げます。

敬具

－ 記 －

1. SPH2000変更内容

項目	対象形式	機能拡張項目
ファームウェア変更	SPH2000 CPUモジュール (NP1PM-48R) NP1PM-48E NP1PM-256E NP1PM-256H	(1)メールクライアント機能

注意：NP1PM-48RはEthernet機能を内蔵していないので機能拡張対象外です。
ただし、他形式との管理上、バージョンを変更します。

2. SPH2000変更に伴う注意事項

(1)2008年5月の生産品より対応しました。

(2)対応バージョン

ファームウェアバージョン「V10」以降にて対応します。

(3)価格、および形式は、現行製品と同一で、変更はありません。

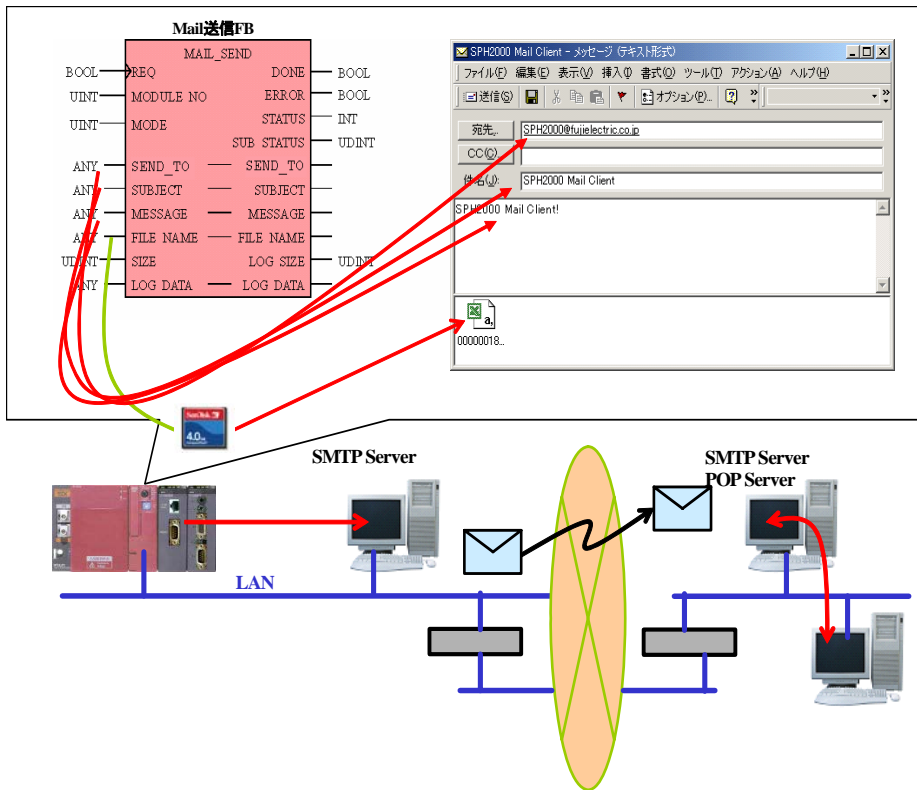
(4)本機能を使用するには、プログラミング支援ツール SX-Programmerのバージョンアップが必要です。

・Expert (D300win) V3 (NP4H-SEDBV3) : V3.4.4.0以降

3. 機能拡張項目の概要

(1)メールクライアント機能

ユーザ任意のタイミングでCPUモジュールからネットワーク上のSMTPサーバーを経由し、宛先の通信機器（パソコンなど）に対して本文および、コンパクトフラッシュメモリからのファイルを添付したメール送信機能を追加しました。



(2) 注意事項

- ①冗長化機能との併用はできません。(NP1PM-256H 使用時)
- ②本機能未対応のCPUモジュールにて、装着したCFメモリから本機能を含んだプロジェクトをダウンロード、実行した場合、CPUモジュールが重故障停止します。また、プログラミング支援ツールとの通信ができなくなることがあります。(SX制御ユーティリティでプロジェクト転送した場合も同様)プログラミング支援ツールと通信不能となった場合は、PLC電源を切って、CFメモリを外し、キースイッチをSTOP位置にして電源を立ち上げてください。プログラミング支援ツールが接続できたら、キースイッチを、TERM位置に移動させてから、リソース初期化やプログラムダウンロードを行ってください。
- ③本機能使用時のCPUモジュールとプログラミング支援ツールの関連性は以下の通りです。

		プログラミング支援ツールExpert (D300win)	
		本機能対応品 (V3.4.4.0 以降)	本機能未対応品 (旧バージョン)
SPH2000 CPU	本機能 対応品 (V**10 以降)	○ : 使用できます。	× : 本機能は使用できません。
	本機能 未対応品 (旧バージョン)	× : 本機能は使用できません ⇒Expert からのダウンロード時、バージョンチェックを行いダウンロードの実行をブロックします。パソコンにて直接 CF への書込みや、SX 制御ユーティリティによるダウンロード時にはバージョンチェックができませんので Expert 以外からの CPU へのダウンロード時にはご注意ください。	× : 本機能は使用できません。

以上